

(ケース事例)

性別	男児
生年月日	2021 年 5 月 2 日生まれ
診断名	自閉スペクトラム症疑い 知的発達症（境界域） (2024.10 月 市内療育センター初診時の診断)
成育歴	37 週 2872 g 普通分娩により出生。
(来所歴)	始歩 1 歳 3 か月。1 歳半の乳幼児健診で、姉に比べると言葉が遅いことを母が相談する。「おいしい」「あっち」などは話しており、しばらく経過をみることになる。半年後、保健所で心理面接を受け、発語が増えていないことから、「お母さんが心配なら療育センターを紹介しますよ」と言われ、迷ったものの来所には至らず。その後の 3 歳児健診で、言葉の遅れなどを指摘され、家でも癩癩が目立ったことなどから自らセンターに電話し来所に繋がった。 2024 年 10 月 市内療育センター受診（保健所からの紹介状あり）。 (診断：診断名参照) 2024 年 12 月 外来療育グループ 1 回／月(1 時間程度)を紹介され参加。 2025 年 4 月 幼稚園（年少）入園。
家族構成	父、母、本児、弟（1 歳児）の 4 人家族
家庭状況	父は会社員。母は専業主婦。 実家は就労や遠方であるため、日常的な子育ての手伝いは難しい。
健康状態	良好

現在の子どもの様子

(家庭)

恐竜が好き。「ガオー」と言いながら恐竜の人形で遊ぶ。自分から笑顔を向け、人へ関わる様子は見られるが、人よりも物に注意が向きやすい。発語は簡単な二語文が出ている。「ごはん食べるよ」など日常生活の声かけに応じる。要求は指差しや直接行動で示す。好きな遊びを終わりとくなく思い通りにならない時に大きな声を出す。食事場面では着席が続かず、玩具で遊び始める。食事はふりかけごはんと揚げ物（唐揚げ）など特定のメニューを食べている。外出時は、興味のあるものを見つけると一人で走っていく様子がある。運動はやや苦手で、両足跳びは最近できるようになったが、20 cm 程度の段差から足をそろえて飛ぶことは難しく、ぎこちなさがある。

(幼稚園)

全体の指示だけで理解することは難しい。制作やお絵描きなど興味のある活動には参加する。着席は長く続かず、気になるものや外から聞こえてくる音などに反応して離席する。お集まりなどは参加が難しく、集団から外れて好きな玩具で遊び始める。大人が次の活動で使用する教材などを見せて参加を促すと、応じることもあるが、自分のやりたいことを優先することが多い。給食は白ご飯しか食べようとしない。着替えは周囲の

様子が気になって進まず、大人が手伝っている。他児が遊んでいる様子を見て笑顔になったり、泣いている児がいると大人に教えたりする様子が見られる。

療育センターでの様子（母親からの聴取）

- 初診時（3歳5か月）に発達検査と小児科診察を受けて、医師から発達の状況について説明を聞いた。ことばの発達は1歳後半くらいの力で、発達障害の特性がみられるとのことだった。
- 医師からは、療育について、本人が「できた！」という達成感を積み重ねていくことが大切で、児童発達支援センターの説明もあった。母としては、幼稚園と併行して週に1～2回程度、療育に通うことを希望していることを伝えた。
- 今後の方針としては、療育に通いながら、集団での適応状況を確認し、発達の経過をみていく方針とのこと。
- 月1回の外来療育グループ（小集団）には親子とも楽しんで参加している。

保護者の様子やニーズなど

（両親からの聴取内容）

- 幼稚園に入園して1か月が過ぎた頃、流れに沿って活動に参加することが難しく、担任から対応に困っているという話があった。「療育の頻度を増やしてはどうか。集団での関わり方を聞いてきてほしい」と言われている。

（母親のニーズや思い）

- 家庭では、本人が好きなように過ごしており、母もどのように対応したらよいか分からない。発達障害の特性の事も知りたいし、集団での様子を見ながら、関わり方を知りたいと思っている。ペアレントトレーニングにも関心があり、機会があれば参加してみたい。
- これまであまり他の保護者と話す機会もなかったが、もう少し保護者同士で話をしたり、情報交換したりできればよいと思っている。
- 学校のことも気になっており、それぞれの学校の事や就相談会など、就学に向けた情報を早めに知りたいとの思いがある。

（父親のニーズや思い）

- 姉に比べてことばが遅いとは思いますが、小学校にあがるまでに伸びるだろうから、発達はそこまで心配はしていない。幼稚園からの指摘についても、園に慣れて、ことばが出るようになれば、変わるのではないかとと思っている。療育でことばを伸ばせるのなら、通わせたい。また、家でもできることがあれば教えてほしい。

